

2018年3月期 第2四半期 決算説明資料

株式会社 安永

証券コード:7271

2017年11月15日



本資料に記述している業績予想および将来予測は現時点で入手可能な情報に基づいて当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれます。その為、様々な要因によって実際の業績が記述する将来の見通しと異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います。

したがって、投資に関する最終決定につきましては上記を踏まえ、投資家の皆様ご自身のご判断で行われるようお願い致します。
本資料に掲載する情報に全面的に依拠して投資判断を下されることはお控えいただきますようお願い致します。

- **トピックス**
- 2018年3月期 第2四半期決算概要
- 2018年3月期 通期業績予想
- 第5次中期経営計画の取組み



エンジン部品新ラインの立上げ状況

今期、国内外で量産開始の主なライン

インドネシア：コンロッド 1ライン（10月）

タイ：コンロッド 1ライン（12月）

国内：コンロッド 2ライン（12月、2018年1月）

シリンダーブロック 1ライン（12月）



コンロッド



インドネシア コンロッドライン(2017年10月量産開始)



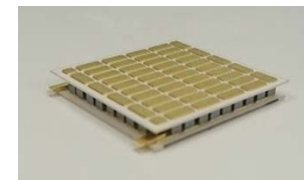
タイ コンロッドライン(2017年12月量産開始予定)

主な展示会出展の状況

熱電関連

「人とくるまのテクノロジー展2017名古屋」 6月28日～30日
排熱発電コンソーシアムの一員として参加。

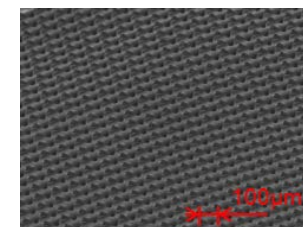
「熱電発電素子」という部材の形だけでなく、今回初めて「熱電発電モジュール」というデバイスの形で展示。自動車関連を中心に、多くの方々に熱電発電技術を認知いただく機会となった。
(ブース来訪者:自動車メーカー、二輪メーカー、部品メーカー、電機メーカー、商社他)



熱電発電モジュール

二次電池関連

「第9回中国(上海)国際リチウム電池工業展示会(CNIBF2017)」 8月23日～25日
昨年11月公表の技術に加え、新たに蓄電デバイス向け微細穴あき箔及び蓄電デバイス用極板への微細穴あけ加工のサンプルも展示。
複数の電池メーカーより自社で評価したいとの要望あり。
(ブース来訪者:電池メーカー、材料メーカー、研究機関、商社他)



蓄電デバイス向け微細穴あき箔

検査測定装置関連

「第47回国際電子回路産業展(JPCA Show 2017)」 6月7日～9日
セラミック基板外観検査装置の検査ユニットの展示及び装置のプレゼンを実施。
電子機器メーカー等9社からの商談・引き合いを獲得。
(ブース来訪者:電子機器メーカー、精密機器メーカー他)

- トピックス
- **2018年3月期 第2四半期決算概要**
- 2018年3月期 通期業績予想
- 第5次中期経営計画の取組み





検査測定装置



ワイヤソー



エアーポンプ



ディスポーザ



コンロッド



シリンダーヘッド



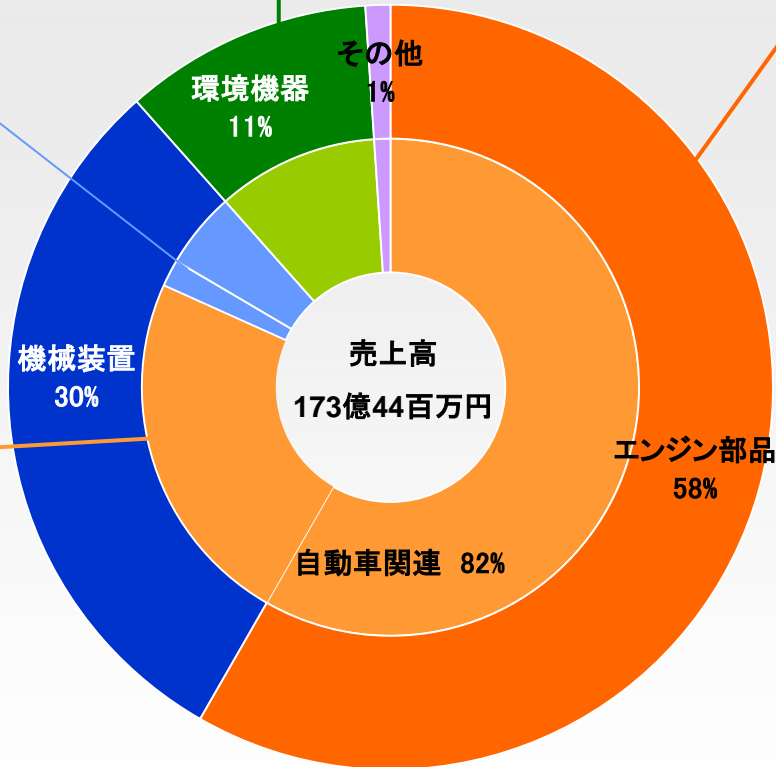
シリンダーブロック



カムシャフト



クランクシャフト



工作機械

第2四半期 決算トピックス (増収増益)

自動車業界及び半導体業界の旺盛な設備投資意欲を受け、機械装置セグメントの販売が好調。利益面でも寄与。また、為替相場の変動により、海外子会社の外貨建て借入金に対する為替評価損が解消したこと等により、経常利益及び四半期純利益は大幅に良化。

(単位:百万円)	17年3月期 第2四半期	18年3月期 第2四半期	対前年同期	
			増減額	増減率
売上高	16,069	17,344	1,275	7.9%
営業利益 (対売上比)	636 (4.0%)	951 (5.5%)	314	49.4%
経常利益 (対売上比)	148 (0.9%)	941 (5.4%)	792	532.4%
四半期純利益 (対売上比)	△ 46 (△0.3%)	613 (3.5%)	660	—

第2四半期決算：セグメント別 売上高・営業利益（連結）

【対前年同期】

売上高の（ ）は構成比

営業利益の（ ）は営業利益率

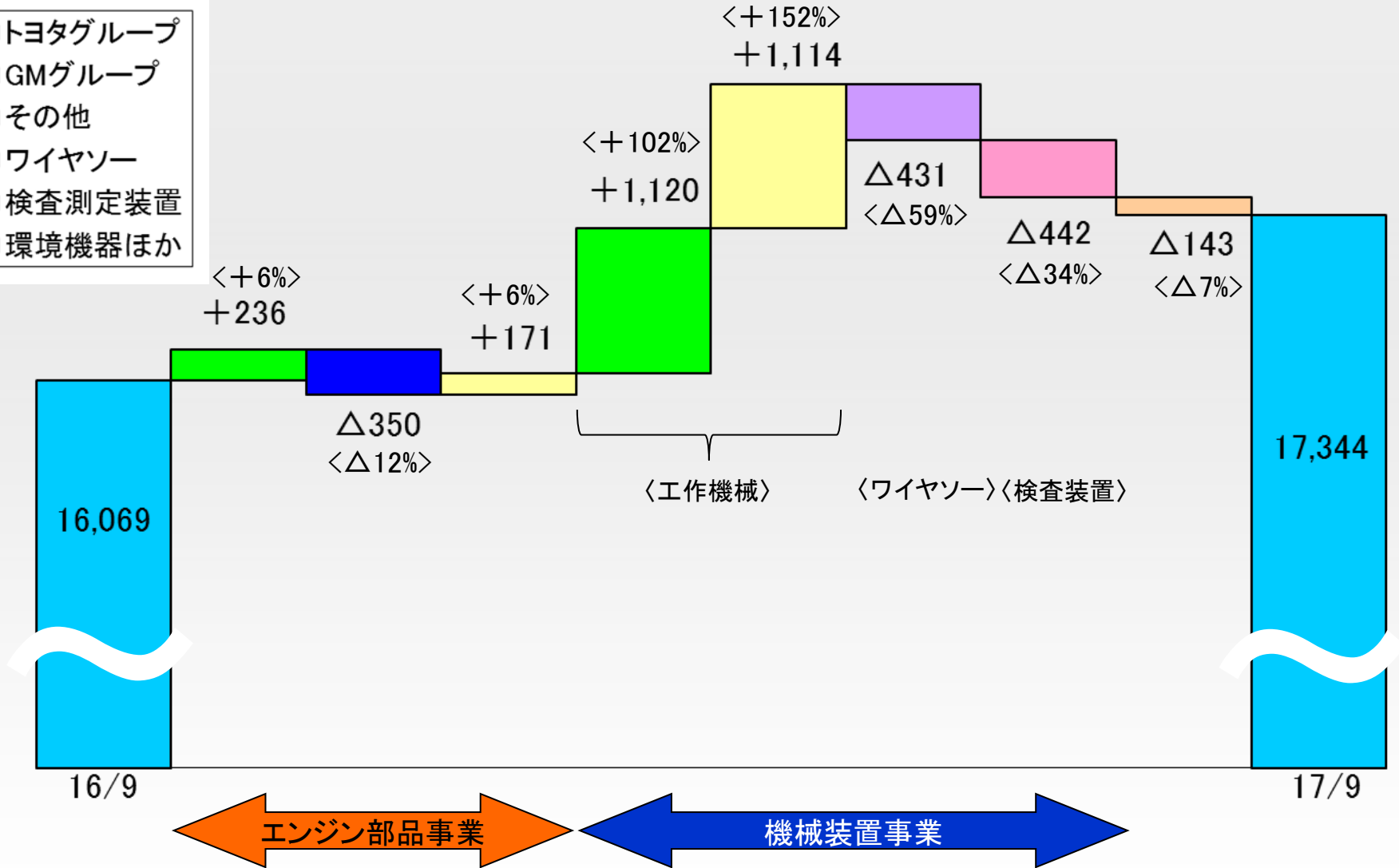
（単位：百万円）

	売上高			営業利益			売上増減内訳
	17年3月期 第2四半期	18年3月期 第2四半期	対前年増減	17年3月期 第2四半期	18年3月期 第2四半期	対前年増減	
エンジン部品	10,053 (62.6%)	10,111 (58.3%)	57 (0.6%)	428 (4.3%)	208 (2.1%)	△ 220 (△51.4%)	トヨタグループ +2.3億円 GMグループ △3.5億円 その他 +1.7億円
機械装置	3,867 (24.1%)	5,228 (30.2%)	1,360 (35.2%)	△ 104 (△2.7%)	523 (10.0%)	627 -	工作機械 +22.3億円 ワイヤソー △4.3億円 検査測定装置 △4.4億円
環境機器	1,987 (12.4%)	1,822 (10.5%)	△ 165 (△8.3%)	294 (14.8%)	209 (11.5%)	△ 84 (△28.7%)	エアーポンプ △0.9億円 ディスポーザ △0.7億円
その他・調整	160	182	21	17	9	△ 7	
合計	16,069 (100.0%)	17,344 (100.0%)	1,275 (7.9%)	636 (4.0%)	951 (5.5%)	314 (49.4%)	

第2四半期決算：連結売上高 増減要因（得意先別）

（単位：百万円） < >は対前年伸び率

- トヨタグループ
- GMグループ
- その他
- ワイヤソー
- 検査測定装置
- 環境機器ほか



第2四半期決算：損益計算書の状況（連結）

【対前年同期】

（単位：百万円）

	17年3月期 第2四半期		18年3月期 第2四半期		増減率
	金額	構成比	金額	構成比	
売上高	16,069	100.0%	17,344	100.0%	7.9%
売上原価	13,845	86.2%	14,671	84.6%	6.0%
販管費	1,587	9.9%	1,722	9.9%	8.5%
営業利益	636	4.0%	951	5.5%	49.4%
営業外収益	110	0.7%	118	0.7%	7.3%
うち為替差益	—	—	35	0.2%	—
営業外費用	598	3.7%	128	0.7%	△78.5%
うち支払利息	72	0.5%	78	0.5%	8.4%
うち為替差損	462	2.9%	—	—	—
経常利益	148	0.9%	941	5.4%	532.4%
税前三半期純利益	133	0.8%	926	5.3%	593.2%
法人税等合計	180	1.1%	312	1.8%	72.9%
うち法人税等調整額	14	0.1%	3	0.0%	△75.7%
四半期純利益	△46	△0.3%	613	3.5%	—

第2四半期決算：貸借対照表の状況（連結）

【対前期末】

（単位：百万円）

	2017年3月期	2018年3月期 第2四半期	増減額
流動資産	17,253	17,840	587
固定資産	16,136	16,307	171
資産合計	33,389	34,147	758
流動負債	13,982	14,817	835
固定負債	8,886	8,265	△ 621
純資産	10,520	11,064	544
負債・純資産合計	33,389	34,147	758
有利子負債	14,253	14,375	121
自己資本比率	31.5%	32.4%	0.9P
一株当たり純資産	879.38円	924.82円	45.44円

主たる増減	
流動資産	
現金及び預金	+1,730百万円
受取手形・売掛金	△530百万円
電子記録債権	△476百万円
固定資産	
有形固定資産	+153百万円
流動負債	
支払手形・買掛金	+118百万円
短期借入金	+700百万円
未払法人税等	△138百万円
固定負債	
社債	△110百万円
長期借入金	△374百万円
リース債務	△163百万円
純資産	
利益剰余金	+530百万円

第2四半期決算：キャッシュ・フローの状況（連結）

【対前年同期】
（単位：百万円）

	17年3月期 第2四半期	18年3月期 第2四半期	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	963	2,541	1,578
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 476	△ 802	△ 325
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 310	△ 0	310
現金及び現金同 等物の増減額	△ 17	1,737	1,754
現金及び現金同 等物の期末残高	3,829	5,223	1,393

POINT (主たる要因)

営業活動によるCF	税前当期純利益	+926
	減価償却費	+785
	売上債権の減少	+986
	法人税等の支払額	△ 467
投資活動によるCF	有形固定資産の取得	△ 837
財務活動によるCF	有利子負債の増加	+83

第2四半期決算：有利子負債の状況（連結）

（単位：百万円）

	17年3月末	17年9月末
有利子負債（D）	14,253	14,375
現金及び預金	3,625	5,355
ネット有利子負債（D）	10,628	9,019
純資産（E）	10,520	11,064
D/E レシオ	1.35倍	1.30倍
ネット D/E レシオ	1.01倍	0.82倍

- トピックス
- 2018年3月期 第2四半期決算概要
- **2018年3月期 通期業績予想**
- 第5次中期経営計画の取組み



通期業績予想：2018年3月期 売上高・利益（連結）



（単位：百万円）

	2017年3月期	2018年3月期(予想)			対前年 増減率
	通期	上期(実績)	下期	通期	
売上高	34,019	17,344	16,156	33,500	△ 1.5%
営業利益	1,469	951	249	1,200	△ 18.3%
(対売上比)	(4.3%)	(5.5%)	(1.5%)	(3.6%)	
経常利益	1,125	941	59	1,000	△ 11.2%
(対売上比)	(3.3%)	(5.4%)	(0.4%)	(3.0%)	
当期純利益	341	613	87	700	104.8%
(対売上比)	(1.0%)	(3.5%)	(0.5%)	(2.0%)	

通期業績予想：セグメント別 売上高・利益（連結）

売上高の（ ）は構成比 営業利益の（ ）は営業利益率

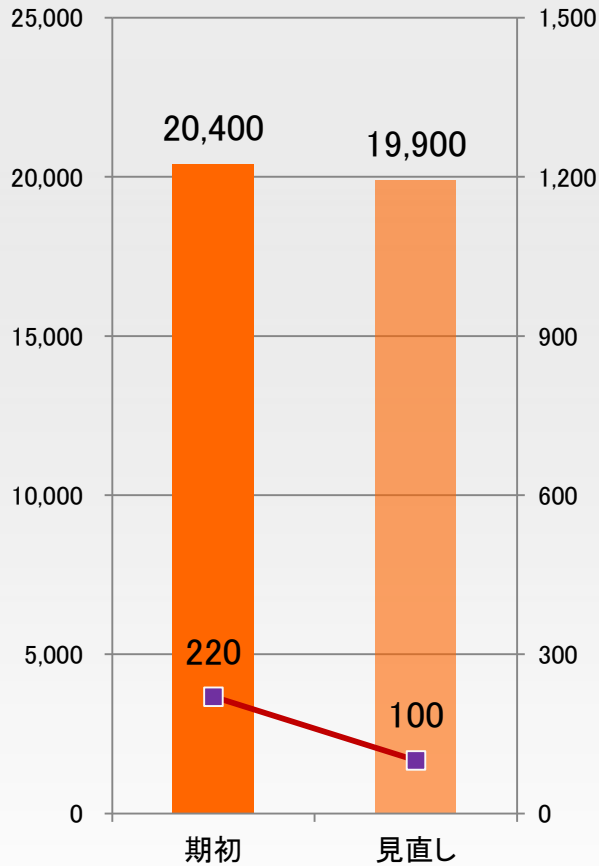
(単位：百万円)	売上高				営業利益			
	17年3月期	18年3月期 予想			17年3月期	18年3月期 予想		
	実績	上期(実績)	下期	通期	実績	上期(実績)	下期	通期
エンジン部品	21,173 (62.2%)	10,111 (58.3%)	9,789 (60.6%)	19,900 (59.4%)	676 (3.2%)	208 (2.1%)	△ 108 (△1.1%)	100 (0.5%)
機械装置	8,919 (26.2%)	5,228 (30.1%)	4,772 (29.5%)	10,000 (29.9%)	354 (4.0%)	523 (10.0%)	412 (8.6%)	935 (9.4%)
環境機器	3,589 (10.6%)	1,822 (10.5%)	1,438 (8.9%)	3,260 (9.7%)	387 (10.8%)	209 (11.5%)	△ 49 (△3.4%)	160 (4.9%)
その他・調整	336	182	158	340	50	9	△ 4	5
合計	34,019 (100.0%)	17,344 (100.0%)	16,156 (100.0%)	33,500 (100.0%)	1,469 (4.3%)	951 (5.5%)	249 (1.5%)	1,200 (3.6%)

通期業績予想：セグメント別 売上高・利益（連結）

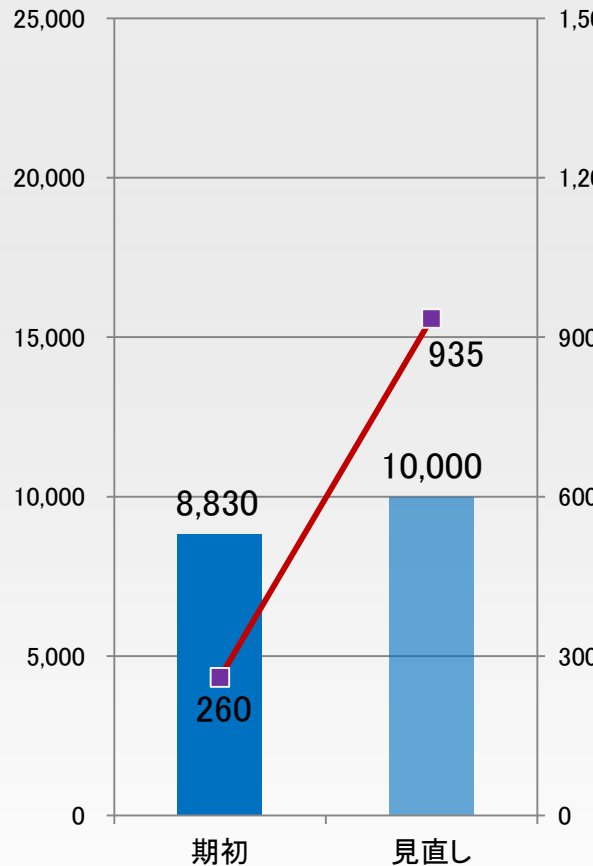
【期初と見直しの対比】

（単位：百万円）

エンジン部品



機械装置



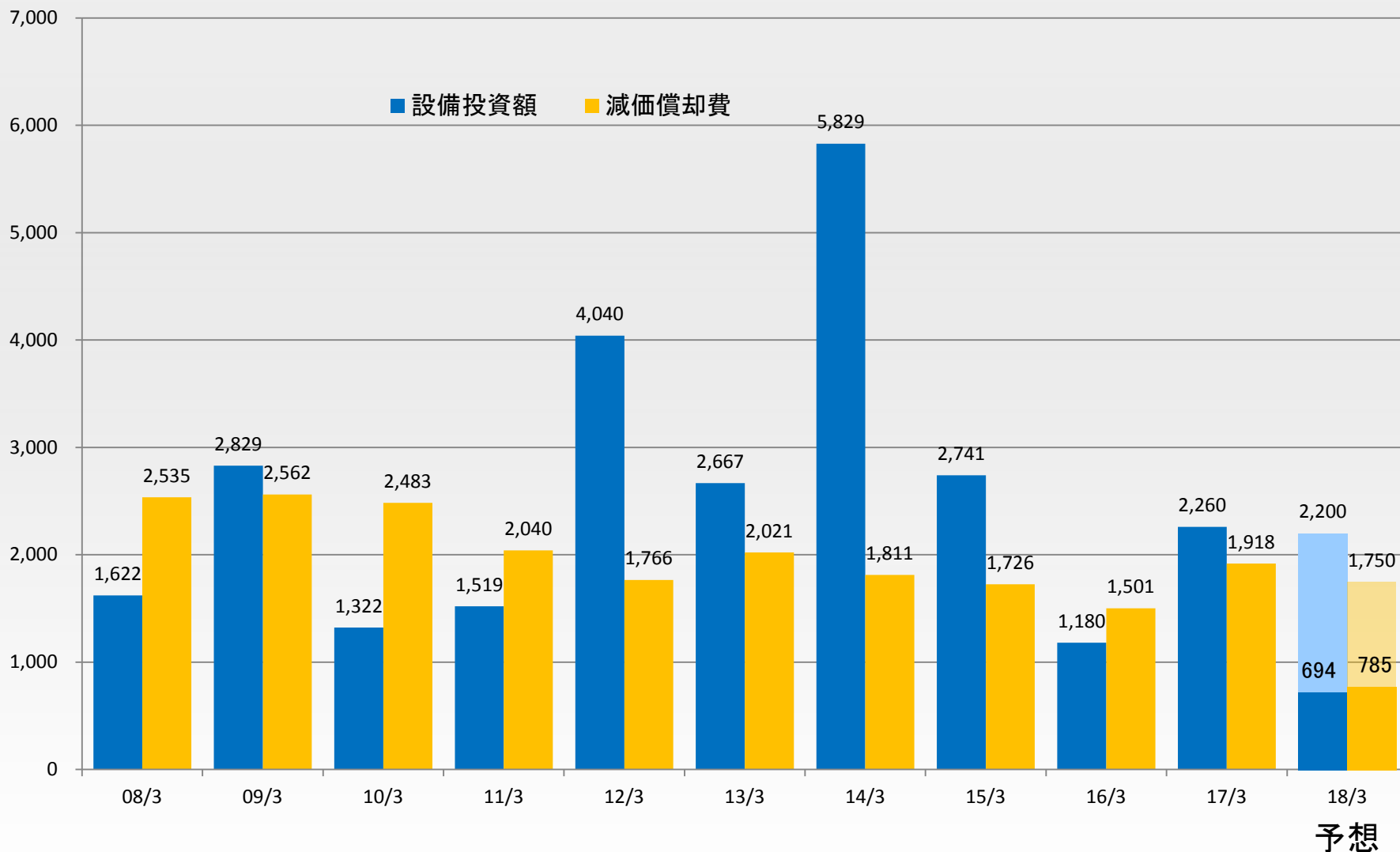
環境機器



機械装置事業において、売上高の増加及び原価低減活動等により、営業利益が大幅に良化。

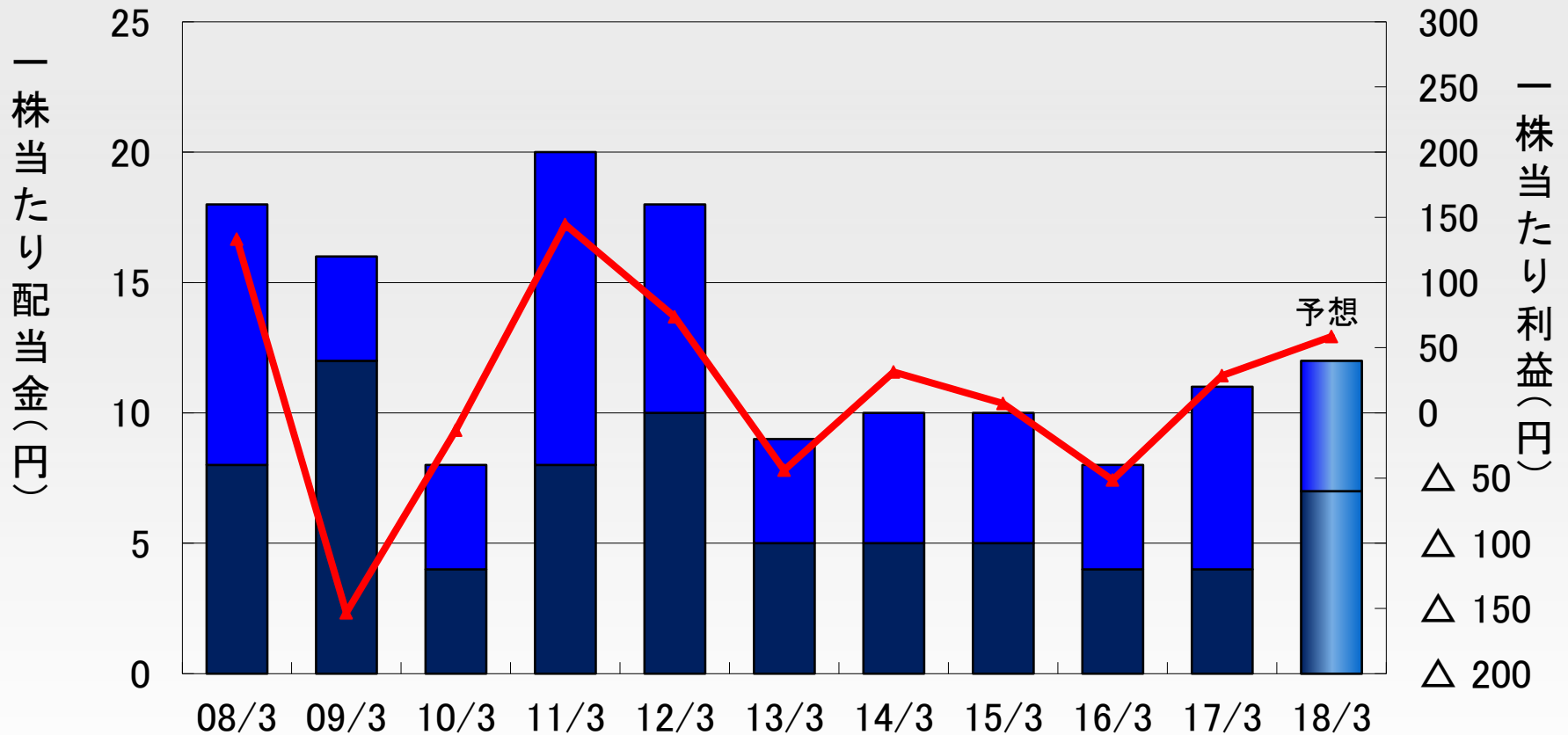
設備投資・減価償却費の推移

(単位:百万円)



株主還元

■ 1株当たり年間配当金 — EPSの推移



- トピックス
- 2018年3月期 第2四半期決算概要
- 2018年3月期 通期業績予想
- **第5次中期経営計画の取組み**



基本戦略

～「グローバルニッチNo.1」を積み重ねて～

1. グローバルニッチNo.1

- ◇各事業体の取組み ⇒ 地域No.1、顧客No.1、製品No.1の達成／強化
- ◇グローバル地域の充実 ⇒ インドネシア・タイ・韓国工場の安定成長
メキシコ工場の生産体制確立～本格稼働
中国二拠点を活用した製販・サービス強化

2. 新事業の創出

- ◇『二次電池関連技術』『熱電発電素子関連技術』を一層高めるとともに、試作販売を通じた事業化を目指す

3. 財務体質の強化

- ◇「自己資本比率」と「ROE」の向上

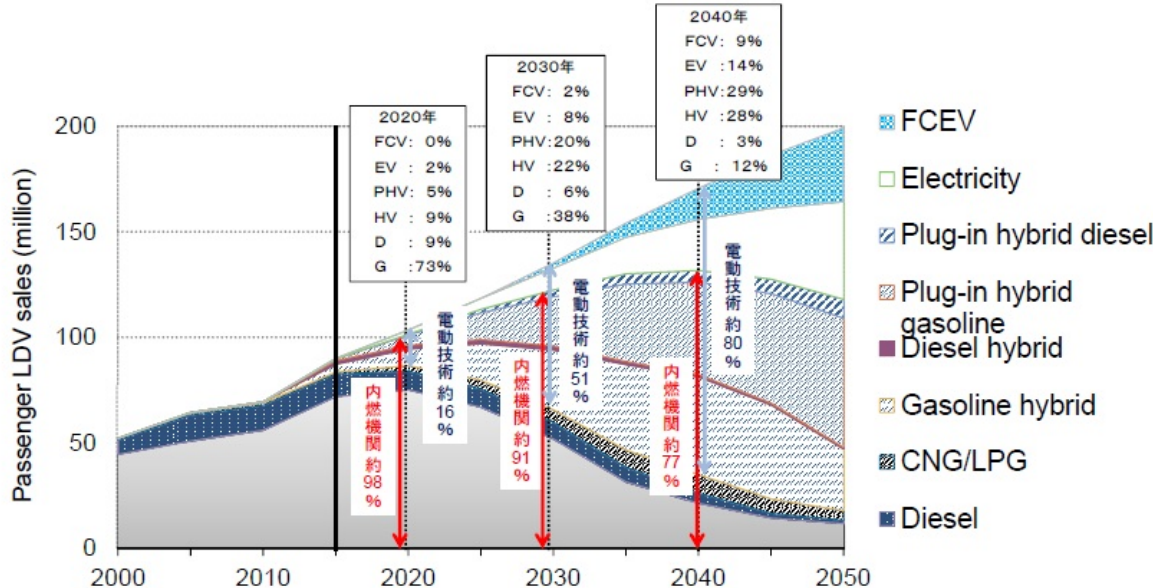
第5次中期経営計画（2017年度～2019年度）

事業戦略

エンジン部品事業

- ◇自動車メーカーの生産体制に合わせた、生産拠点の体制強化を進める。
- ◇主力のコネクティングロッドは、先進国、新興国のいずれにおいても、あらゆる素材・工法に対応。

車種別販売台数(世界)の将来予測



当社拠点におけるコネクティングロッド生産対応

材料	工法	先進国	新興国
鍛造材	切断	○	○
	かち割り	○	○(※)
焼結材	切断	○(※)	○
	かち割り	○	○(※)

(※)は第4次中計の期間に新たに加わったカテゴリー



出典：「自動車産業を巡る構造変化とそれに対応について」平成27年11月 経済産業省製造産業局自動車課

事業戦略

機械装置事業

- ◇ 独創的なコア技術と原価力および生産性の更なる向上で、最適なモノづくりを創出し、顧客ニーズに合った製品を提供。
- ◇ 特に自動車・車載半導体の市場で、商品提案 および受注活動を強化。



工作機械



ワイヤソー



検査測定装置

事業戦略

環境機器事業

- ◇「浄化槽用エアープンプ」「燃料電池用エアープンプ」「ディスポーザ」の3本柱で、更なるシェア向上に努め、環境分野で社会に貢献。
- ◇特に「浄化槽用エアープンプ」は、海外市場において、米国でのシェア拡大と東南アジアでの販売基盤の確立に注力。



浄化槽用エアープンプ



燃料電池用エアープンプ



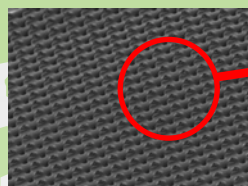
ディスポーザ

事業戦略

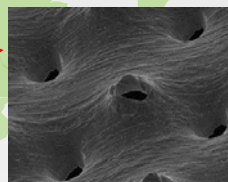
新事業創出

◇ 『二次電池関連技術』

リチウムイオンバッテリーおよびリチウムイオンキャパシタ向けのビジネスモデル構築と、小規模量産開始を目指す。



微細穴明き集電箔



拡大画像



評価用セル

◇ 『熱電発電素子関連技術』

生産技術構築と、顧客への当社熱電発電素子および熱電発電モジュールの採用を目指す。

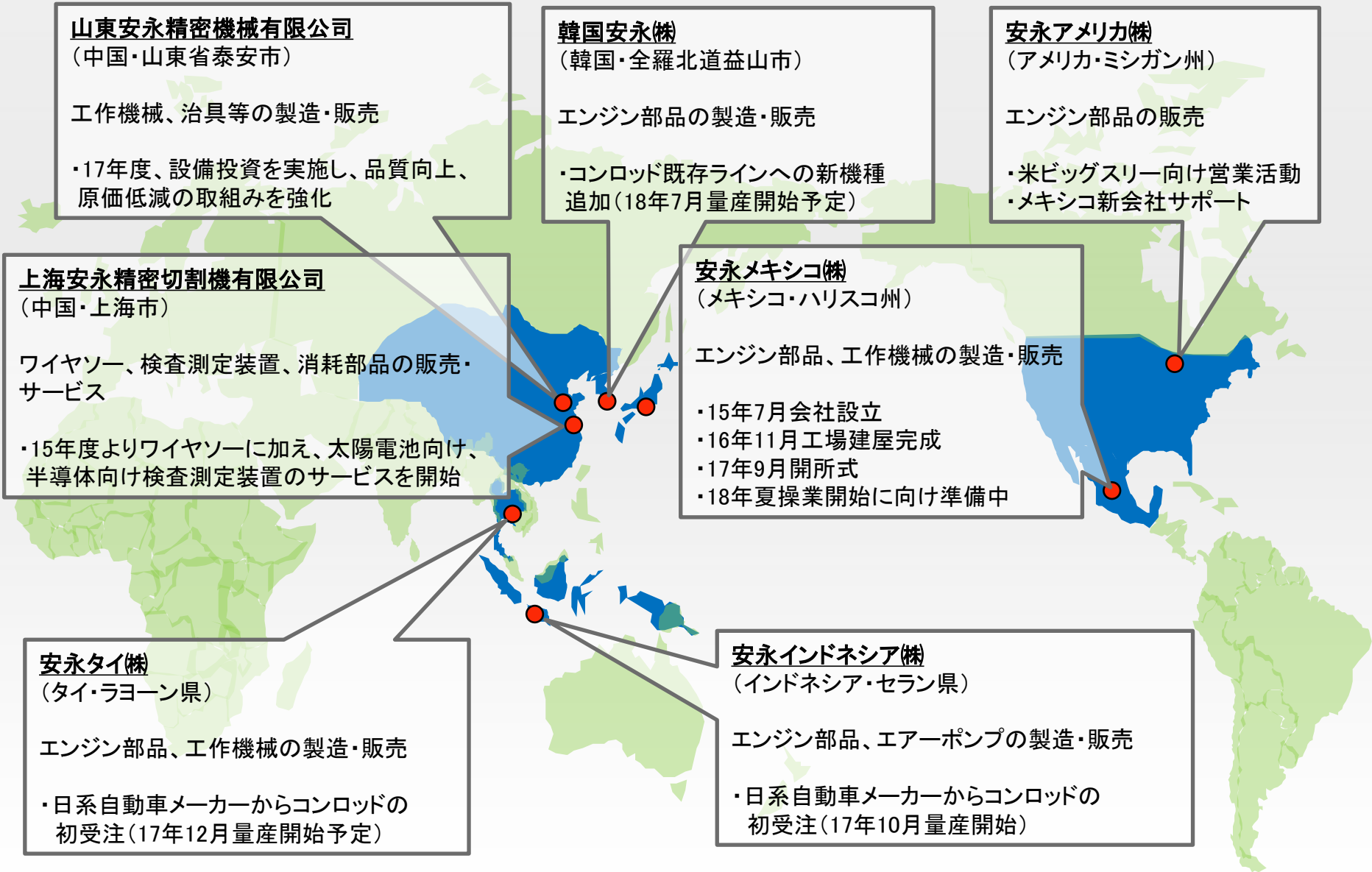


熱電発電素子


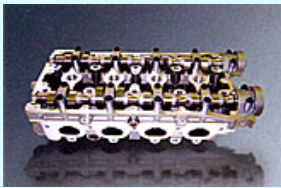
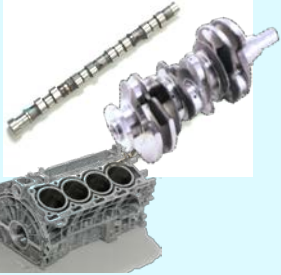


評価用モジュール

海外拠点の近況

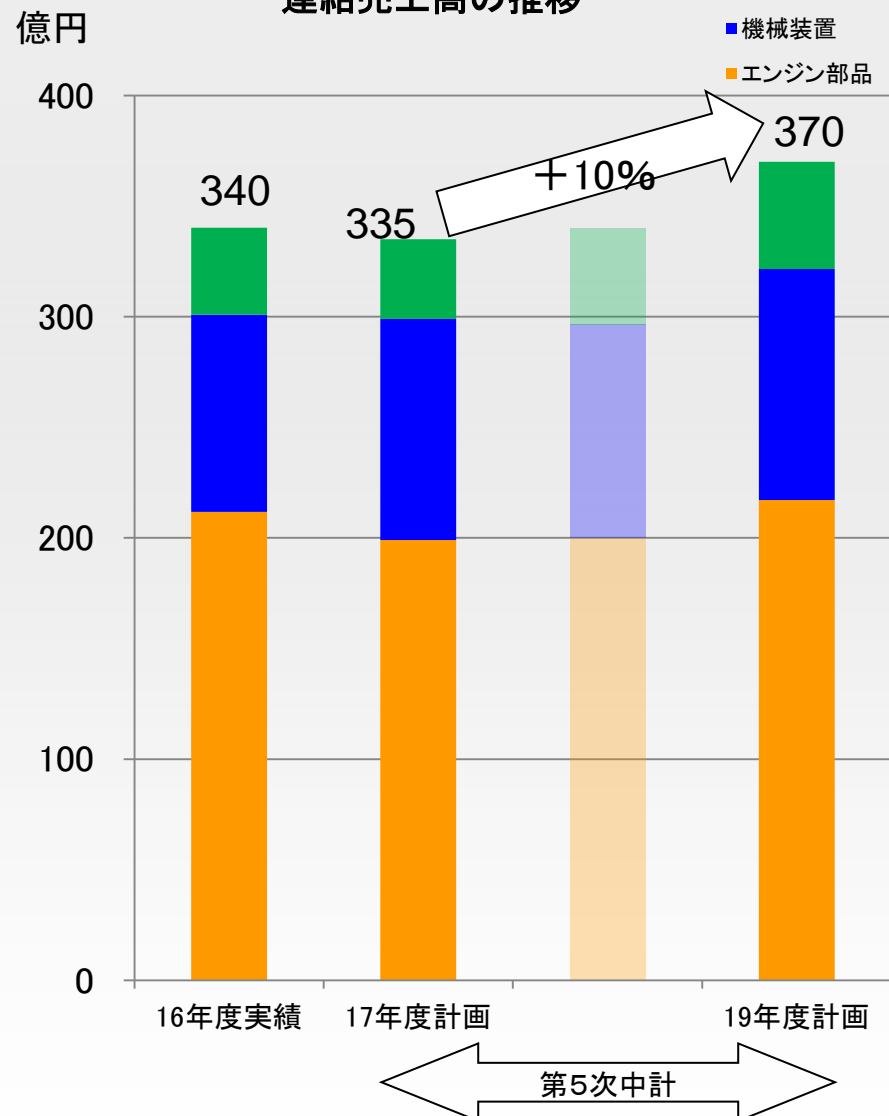


エンジン部品の新規商談状況

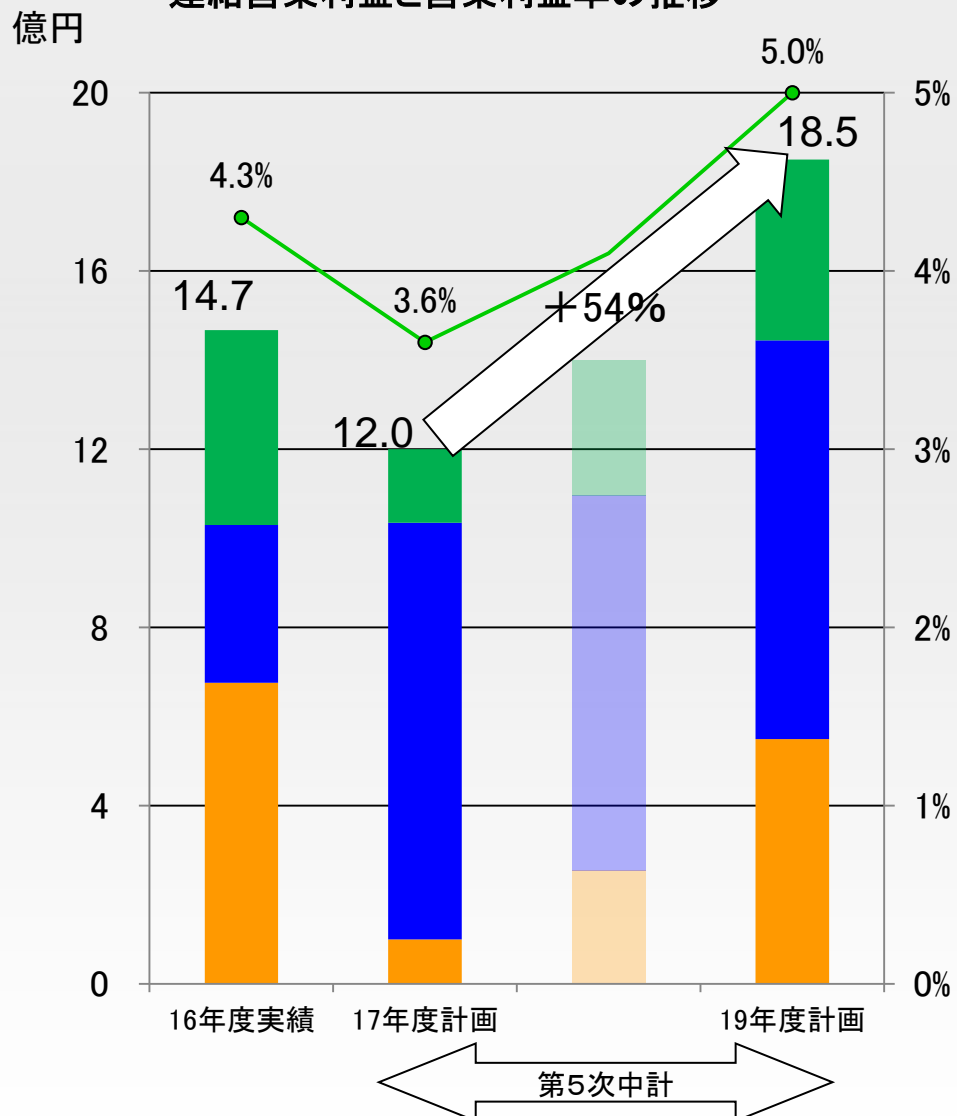
製品名		18年3月期	19年3月期	20年3月期	21年3月期
ロンロッド 	国内	● ● ●	●	● ●	●
	海外	● ●	● ● ●	●	
シリンダーヘッド 	国内		●	●	
	海外				
その他 	国内	●	●	●	
	海外		●		

連結売上高の推移

- 環境機器他
- 機械装置
- エンジン部品



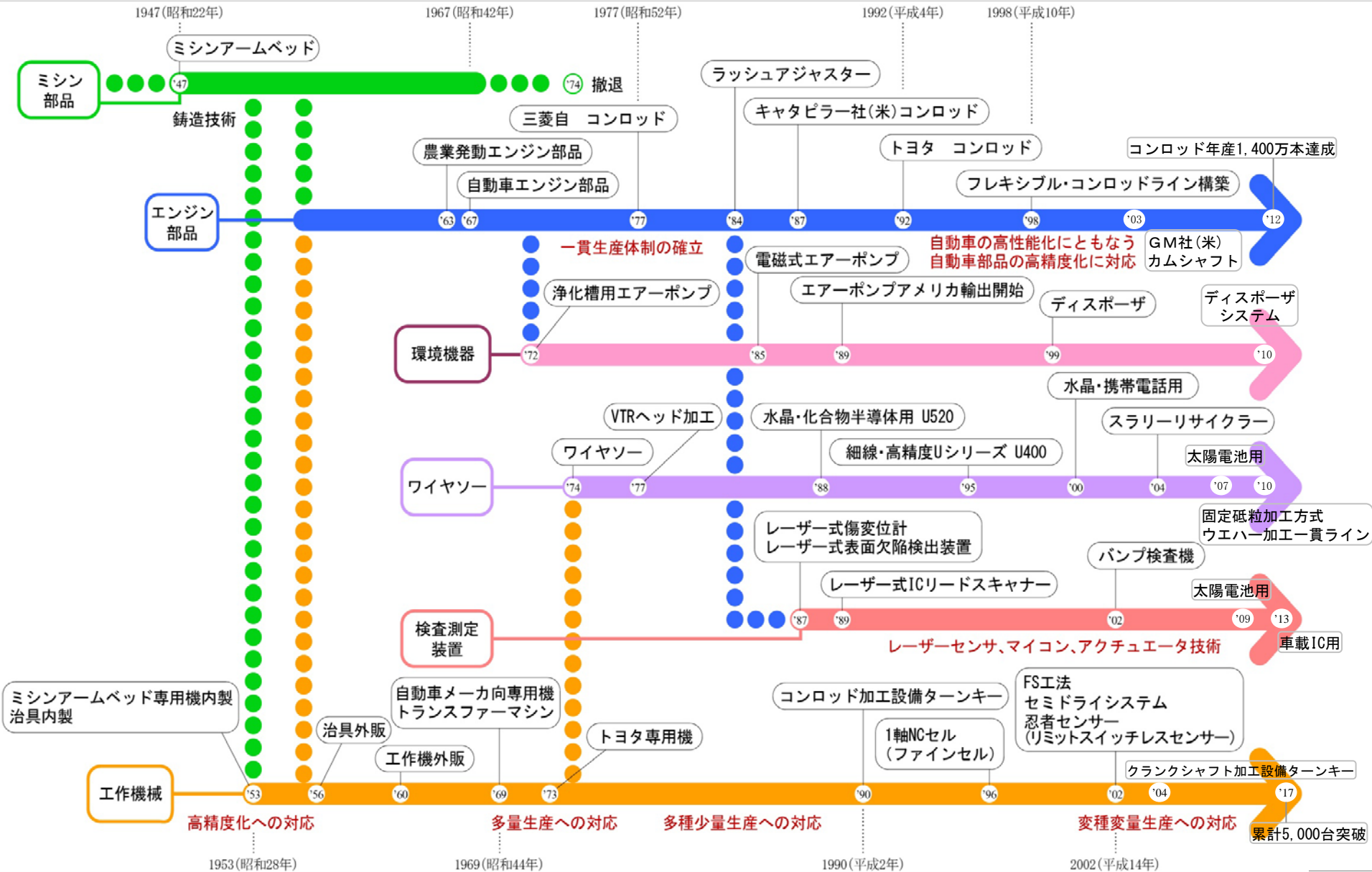
連結営業利益と営業利益率の推移



- **設 立** : 1949年9月(昭和24年)
- **代表者** : 代表取締役社長 安永 暁俊
- **上 場** : 東京証券取引所 第一部 (2014年6月12日)
1単元の株式数 100株
- **事業内容** : エンジン部品、機械装置(工作機械、ワイヤソー、検査測定装置)、
エアーポンプ及びディスプレイシステムの製造・販売
- **資本金** : 21億42百万円 <2017年3月期>
- **売上高** : 340億19百万円(連結) <2017年3月期>
- **従業員** : 1,741名(連結) <2017年9月30日現在>
- **事業所** : 本社(三重県伊賀市)
工場(伊賀市4、名張市1)
- **関連会社** : 国内 4社、海外 7社(6ヶ国)

製品技術の歩み

補足資料②



事業領域 エンジン部品事業



補足資料③

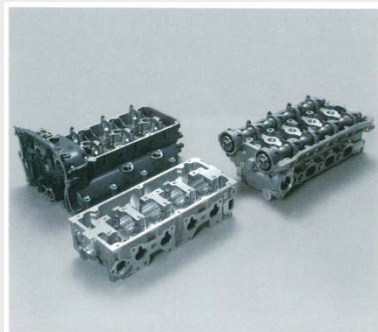
(%)はエンジン部品
製品別売上比率

【17年3月→17年9月】



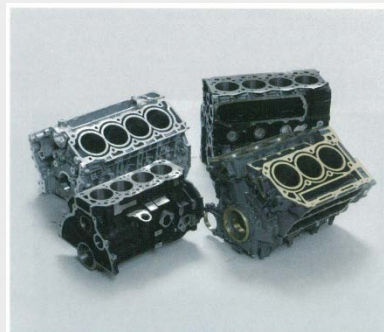
01 コネクティングロッド Connecting rod (51→56%)

トヨタ、ダイハツ、三菱自、三菱ふそう、
FCA



02 シリンダーヘッド Cylinder head (12→8%)

韓国GM、スズキ、三菱重工、クボタ、
トヨタ



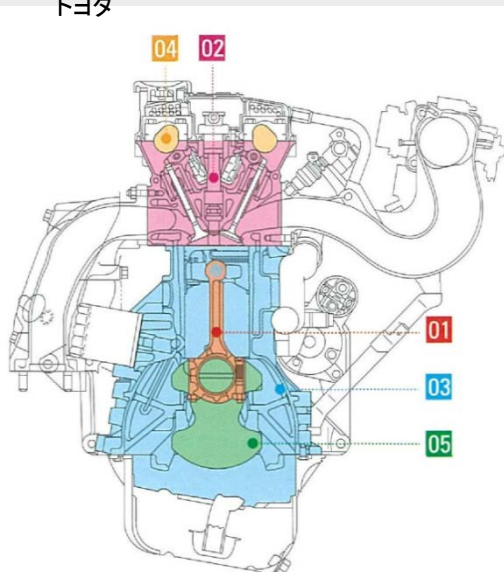
03 シリンダーブロック Cylinder block (12→11%)

ダイハツ、三菱重工、スズキ



04 カムシャフト Camshaft (18→18%)

GMPT



その他(7→6%)



05 クランクシャフト Crankshaft (0→1%)

韓国GM

自動車メーカーが
内製している
エンジン部品を
当社が生産

エンジン内部に組み込まれる
部品の生産・加工

エンジンの性能、
機能を熟知

高品質、低コストの
製品づくりを提案

【主要取引先】

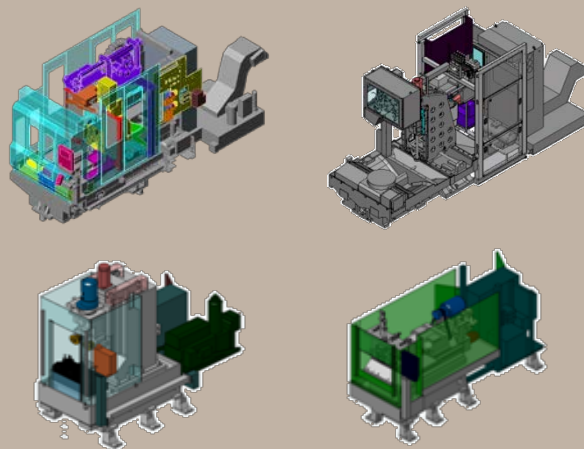
トヨタ自動車、GMPT、韓国GM、
三菱自動車工業、ダイハツ工業、
三菱重工業、三菱ふそうトラック・バス、
クボタ、FCA、スズキ等

専用機の
豊富な経験から
標準機を開発

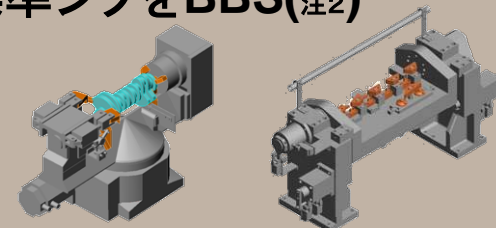
部品事業の
生技ノウハウを
開発、設計に
盛り込む

セルマシン(注1)で多くの実績

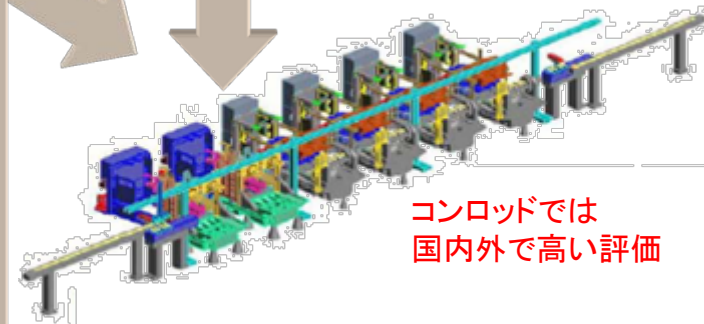
コンロッド、軸物(カムシャフト、
クランクシャフト)加工設備



標準ジグをBBS(注2)



専用機で培ったノウハウを標準化



コンロッドでは
国内外で高い評価

ターンキー受注に対応可能

注1: 工程特化型マシニングセンター

注2: Build Block Systemでセルマシンに組付け

低コスト、高品質の製品づくりを提案

【主要取引先】

国内自動車メーカー及び関連メーカー(トヨタ系、日産系など)
海外自動車メーカー(中国、韓国など)

売上高・利益の推移（連結）

補足資料⑤

